

## コロナと共に

応用物理学科 浅野 貴行

今年度も本レポート執筆の機会に恵まれました。選挙権を有し、投票に参加してくれた2020年度入学応用物理学科3年生の皆さんに感謝申し上げます。このレポートの提出期限は、恒例?の今年最後の出勤日(2022年12月28日)であり、ここ数年、私の仕事納めの行事となっています。関係事務方から送信されたレポート提出依頼のメールを受信すること毎回、翌日から日々悶々、依頼内容を(概ね?)無視したレポートを提出してきました。

思い返すと、まさにコロナと共に過ごした3年間でした。2020年3月、学外共同利用施設に於いて大型機器を用いた実験を実施しました。福井駅からその施設へ向かう公共交通機関の車内は、私以外の乗客1名、テレビのニュース番組で見た光景に直面し、事の重大さを改めて感じた瞬間でした。5日間の実験期間中、共同研究者である施設所属教員の元には、4月開始の授業実施に関する連絡が多数、「リアルタイム授業?」「オンデマンド授業?」「データ容量は?」「Zoom利用? YouTube利用?」「在学生のPC所有率は?」「・・・?」等々、教職員の方々が右往左往する現場を目の当たりにしました。当然ですが他人事ではなく、大学へ戻ると同じような現場、対応が迫っていることを予感させられました。

その後、本学では、有識教員によるリモート授業の検討、並びに事務の方々の懸命な新入生、在学生への連絡・対応、そして各種議論の末、5月大型連休終了後からの前期授業開始が通知されました。授業開始までの約1ヶ月間、リモートでの授業準備に追われ、現実には授業開始後もほぼ毎日、資料の作成、特に、オンデマンド用の慣れない音声録音の日々だったと記憶しています。その資料群は、コロナ罹患及び濃厚接触者の学生へのリモート対応や各種授業の参考資料として、現在も活用しています。以上、授業配信側の云々(詳細は、過去のレポートをご覧ください。)ですが、授業受信側の対応は、誠に大変だったと思われまます。

その授業受信側の当事者である2020年度入学者数名の助言教員を担当しています。入学直後の新入生全員とその助言教員が参加する恒例合宿は、残念ながら中止となり、Google Meetを利用したリモートでの初顔合わせとなりました。県外出身者の助言学生の多くは、大学近隣のアパートへ引っ越すこと数日、授業開始延期の連絡を受けて帰省し、リモート授業に備えていました。また、ある学生は、帰省先のネットワーク環境が悪いため福井での生活を選択、同級生との交流やサークル活動も開始されないまま、授業のリモート配信に備えていました。前期授業期間中、助言学生とのリモート面談の実施や学科主催のリモートでの新入生交流会の開催により、本学本学科、さらに同級生との繋がりを何とか確保、維持できるように試みていました。その交流会では、新入生合宿の企画・運営同様、物理博物館に所属する在学生が孤軍奮闘、助言教員へのインタビュー動画製作やリモート開催ならではの各種企画、楽しい場を提供してくれました。本当にありがとうございました。感謝です。

以上のように、コロナにより大きく変貌した大学での日常(の一部)、2023年を迎えるにあたり懐かしく感じられる日が早く訪れることを期待して・・・